今後の図書館サービスのあり方検討会（第３回）概要

【日　　時】　令和元年 10 月 30 日（水）18 時～20 時
【会　　場】　中野区役所５階教育委員会室
【出　　席】　別紙名簿参照（委員 14 名、事務局２名、傍聴者３名）

＊＊＊

１．あいさつ（子ども・教育政策課長）

第３回については、第１回、第２回の総論的なご意見を受け、５つのテーマで具体的な課題の検討を進めたいと考えている。

２　意見交換

（１）学校図書館の現状と区立図書館との連携について（資料１参照）

《主なポイント》
〇区立図書館の学校図書館への支援は、大きく２種類となる。
→「学校図書館の機能を充実させるための援助：学校図書館と区立図書館の合同研修会の実施、おすすめ本の合同選書会議、団体貸出、リサイクル図書の提供など。
→「児童生徒に直接、働きかける援助」：ブックトーク（小学校）、知的書評合戦（中学生）、図書館見学会、体験学習など。

・　学校図書館（小学校）は、読書センター・学習センター・情報センターとしての機能を持っている。
　・　読書センターとしては、読書の楽しさを通して習慣づけることが重要で、低学年では授業に読書の時間を設けている。また「中野の 100 冊」というリストを作成して活用している。
　・　学習センターとしては、学びを深めるため、総合的な学習の時間、社会、理科や国語の教科などの学習活用している。例えば、明治時代の学習が始まる頃には、明治維新の頃の偉人の伝記を揃えておくなど、学習活動の支援や授業内容を豊かにすることで理解を深める機能がある。
　・　情報センターとしては、子ども達や教員の情報ニーズに対処したり、子どもたちの情報収集・選択・活用能力を育成する機能がある。具体的には、図書館の使い方を学び、自分で調べたいことを本を使って調べるような活用もしている。

１２学級以上の学校には司書教諭もいるが、中野区では全校に学校図書館指導員が配置されており、担任と連携して必要な本の選書、区立図書館と連携した団体貸出なども担当している。
指導員の力は学校の授業に非常に有効であるが、個人差もあるようだ。全体を束ねる

ような存在がおり、改善策なども提案してくれるようになるとよい。
　また、中野区小学校教育研究会の学校図書館研究部をはじめ、各校から地域開放型学校図書館が今後どうなるのかを知りたいという声はあった。

・　学校図書館（中学校）も、同様に３つのセンターとしての機能を持っており、読書センターとしては、平成９年に全小中学校に学校図書館指導員（学校司書）が配置されたことで、中野区の図書館は充実してきている。
　当時、他区では指導員が配置されておらず、学校図書館標準はクリアしても、書架の整理が不十分であったり、読み手の年代にあっていないものがあるというような例も見られたが中野区ではそのようなこともなく、むしろ入り口に本の紹介があったりと、読書をしたくなるような図書館が増えてきているといった印象がある。
　区立図書館との連携の点では、年１回ではあるが、合同研修会によりスキルアップ、情報交換が可能になっている。
　また、学校図書館は予算と面積が限られているので、区立図書館からの団体貸出が非常に役立っており、例えば、修学旅行や社会科見学の前に、行く場所について調べるなど、学習活動が進められている。
　知的書評合戦は、平成 27 年にスタートし、現在全中学校で実施しており、平成 29 年からは区立図書館と共催している。
　今後の課題は、学習センター機能の拡充と考えている。来年、区立図書館と全学校図書館がオンラインシステムでつながり、学校図書館に無い本が区立図書館にある場合、すぐに借り受けられるということにはすごく期待している。

・　1850 年代にボストンで初めて近代的な公共図書館が出来た際の有識者のレポートに「なぜ公立図書館を作るのか」ということがあり、学校教育には公的な資金を投入するが、学校を出た人には学ぶ場が無い。その場を作らなければいけない。公共図書館を作ることによって、公教育が完成される。図書館の無料の原則はこれによっている。
　一方で、日本の公共図書館は学校教育への関心が低く、教科書の収集を行わない。そのため、教育現場からの要望を把握しきれていないように思う。今後、教科書を収集し、子どもたちがどういう教育を受けているかを知る必要がある。

（２）地域開放型学校図書館の開設について（資料２参照）

《主なポイント》

○　セキュリティについては、外部からの入口は専用で、学校の他部分には入れず、地域開放型学校図書館内から学校部分へも施錠されており、通常のセキュリティは確保されていると考えている。
○　学校図書館の図書は閲覧のみで、貸出はしない。
○　開館時間は、区立図書館分館部分は９時～20 時であるが、学校図書館部分は検討中である。
○　区立図書館分館部分の蔵書は 3000～5000 冊であり、ネット環境で予約し、ここで受け取ることが出来る。

質疑・意見

・　中野区は学校の敷地が狭く、そこに地域開放型学校図書館、キッズ・プラザを入れると、校庭が狭くなり児童のためにならない。私立小中学校への進学率も高い中、学校の魅力を高める意味でも、一律に整備するのではなく、臨機応変に検討していくことも必要ではないか。

・　学校図書館と区立図書館の連携のため、協議会のようなものを設置したらどうか。
　また、地域開放型学校図書館ついては、否定的な意見も多く、地域図書館を減少させる手法にも思えるので、区長、教育長も替わったことでもあるし、新たな基本計画の中で再考して欲しい。そして、地域開放型学校図書館を一旦やめたり、導入するにしても一律にではなく個別に検討してはどうか。

・　本町図書館、東中野図書館を閉館せず，地域図書館のサービスを充実させ、800 メートル圏内に図書館があるようにすれば、地域開放型学校図書館は必要ないのではないか。小さい子や親を支援するのであれば、すこやか福祉センターや児童館、子育てひろばなど、今ある資源と連携して、アウトリーチすればよい。
　また、小学校の広さの面でも、校庭やキッズ・プラザを拡げた方が良いように思う。

・　小学校側のメリットは何で、どの程度の効果があるのか。
→　長期休業中などは、本を読めるだけではなく、勉強をすることも可能となり、一定の効果はあると考えている。
　また、乳幼児から低学年までの本を区立図書館分館部分に配架することで、学校からも利用しやすくなると考えている。

・　学校からの利用ということは、両者の間の扉は開いているのか。
→　開校日には施錠し、長期休業等の休日には学校図書館も開放する。

・　地域開放型学校図書館について、蔵書等ではメリットを感じない。時間外に本の貸出や返却の時間を拡大するのなら分かるが、試験的にやってみて、段階的な検討が必要ではないか。
→　地域開放型学校図書館の開設には、改築等の整備が必要であり、そのスケジュールに沿って、実際に開設・運用をしていく中で、検証していきたい。

（３）中野東中学校等複合施設内図書館の運営について（資料 3 参照）

《主なポイント》

○　中野東中学校等複合施設は、中野東中学校、（仮称）総合子ども支援センター、区立図書館、教育センターの複合施設で、図書館は 7 階から 9 階を使用する。

○　7 階は、児童サービスがメインであり、お話し会等の事業を行うプレイルーム、絵本コーナー（赤ちゃん向け含む）、子育て支援コーナー、多文化・外国語図書コーナー、ラウンジ（飲食可）がある。また、予約室があり、ネット等で予約した図書を自動貸出機等を利用して図書館員を介さずに借りることができる。その他、中高生の居場所としてティーンズルームを設置している。

○　8 階は一般的な図書館のフロアであるとともに、対面朗読室、拡大読書機の配備等

障害のある方にも利用してもらえるものとしたい。

○　9階はビジネス支援フロアで、コワーキングスペース、ミーティングルーム等があるとともに、コーディネータ（図書館員）を配置し、簡易な相談等も受ける予定である。また、ビジネスマン等が利用しやすいようにオンラインデータベースの拡充も考えている。

質疑・意見

・　なぜ図書館でビジネス支援なのか。また、3階層のフロア形式では、図書館員の死角が懸念される。特に7階では、公共施設の性格上、年齢で利用を制限することも難しく、一般利用者が占拠してしまう、小さい子どもだけで利用できてしまうなど問題も多いと思う。

→　セキュリティに関しては、7・8・9階それぞれに人を配置する予定。7階の児童コーナーは出来るだけ子ども・子育ての専用フロアとしたい。

　また、ビジネス支援の理由としては、中野坂上駅近くで企業等が集積した地域という立地を踏まえ、図書館のテーマとしてビジネス支援を考えている。

・　ビジネス支援には需要があるのか。

→中野坂上という立地や関係団体の意見などから需要はあると考えている。

・　新図書館の運営について、利用者や地元で組織される運営協議会を設置したらどうか。区が子育て先進区を目指すのであれば、子どものための図書館があってもいいのでは無いか。

・　子育て支援フロアを誰でも利用できるというのは、どこの自治体でも問題になっており、結局大人が占拠していることも多い。運営がうまくいっているところは、大人を入れない。この辺は感染症対策の点からも専用スペースとすることが望ましい。

（4）図書館サービスの今後の方向性について（資料4参照）

《主なポイント》

○　平成27年の「区立図書館の今後の取組（考え方）」は継承していくつもりであり、図書館の基本的な性格が課題解決支援であることも変わりはない。

○　自習、資格等の勉強ができるスペース、パソコン等を活用し仕事や趣味ができる場所が必要だという意見があり、他自治体でもそれらのニーズに対応している。

○　個性ある図書館としてのテーマ設定は、展示の質・量を考えると、大規模館でのみ行うことが現実的であるように思われる。

○　子どもの読書活動の推進のため、児童図書の貸出冊数を増加させる必要があり、ブックスタート及びその後に続く事業を構築し、学校図書館に繋がるという流れが大切である。

○　子育てひろば、児童館へ出向いての読み聞かせ、町会など地域団体の活動等の展示など、アウトリーチの対応を進める必要がある。

○　ユニバーサルデザインの推進からも、また読書バリアフリー法の施行からも、デイジー図書やサポート機器の拡充は不可欠であるが、必要な人に情報が届いていないという点への配慮も重要である。

（５）図書館サービス網・配置のあり方について（資料５参照）

《主なポイント》

○　資料５については、現行計画に沿って，地図にプロットしたものであり、令和２年度に美鳩小学校、みなみの小学校に、令和３年度に中野第一小学校に，地域開放型学校図書館を開設とともに配置を考えている。

○　現時点で、小学校の改修等の計画があるのは、９校である。

○　本町図書館、東中野図書館は、令和３年度に中野東中学校等複合施設内図書館に統合され、閉館とする予定である。

・　新図書館については、今までの図書館のイメージとは大きく変わってきている。子育て支援、ビジネス支援、飲食可能ということだが、個人的には、図書館で子どもが走るということには違和感がある。地域には子育て支援で１日預かってくれる施設もあり図書館内にそういうポイントをつくるなど調整が必要だと思う。

質疑・意見

・　自動販売機は７階にも設置するのか。親子の利用を考えると、いちいち９階まで行くのは不便ではないか。

→　予定では、９階に設置するが、今後検討したい。

・　中野区に観光に来た外国人に対するのアピールも必要と感じる。情報発信に関しても、タブレットなども利用したほうが良い。東京都の老人クラブでももっとパソコンを活用していきたいとの声があり、その辺でも図書館利用ができるとよい。

→　タブレットの配備・利用については、図書館の運営計画の中で考えていきたい。また、外国人への広報は重要と考えている。

・　障害者関連の今後の取り組みには期待していきたい。世の中はどんどんICT化していくが、合理性や便宜性だけではななく、人の目や人の手というものを大事にしていってほしい。また、高齢者への対応と障害者への対応を区分けせず、一体的に行うことを検討していってほしい。

→　ICT化イコール無人化ではなく、人によるサービスが必要なこともあることは理解している。また、自動貸出機等の利用についても、音声案内は可能かなど、誰もが利用できるよう配慮していきたい。

・　新図書館では、ティーンズルームなどの自習室を設置するとのことだが、せっかく設置するならば、もっと広くしてほしい。子ども子育て支援フロアに一緒にすると、小さな子とトラブルは懸念されるので分けた方がいい。

　また、地域開放型学校図書館をつくることで、地域図書館を廃止するということは理解できない。その有効性を試験的に運営し検証するなどの必要を感じる。

→　現行の計画は、地域館を無くすために地域開放型学校図書館を整備するとはいう考えではない。本町図書館、東中野図書館は、中野坂上の新図書館に統合するため閉館するということである。

・　地域開放型学校図書館については、学校図書館と区立図書館分館部分という考え方ではなく、一つのものとして時間を分けて利用するなどを考えれば、現状より広く、蔵書も増加し、寝そべったり、自習したりと用途的にも広がるし、図書も貸出用・閲覧用と区分すれば、授業中などはより広範囲な利用が可能になるように思う。

・　地域開放型学校図書館は、どうしても学校の端に位置してしまう。現在勤務している学校は、道路を挟んで図書館があるので大変であるので、図書館は学校の中央部にあり、児童がいつでも利用できるということが望ましい。区立図書館分館と学校図書館を分けないという考えは、司書の常駐に繋がるので学校のメリットは大きいと感じる。

・　中野中学校は、正面階段の上に図書館があるからか生徒の利用者は多い。全国的に小学生の不読率が 5%、中学生は 15～20%、高校生は 50%近くある。睡眠や読書は脳の発達に良い影響を与える。その意味でも、学校と区立図書館の連携は重要だと考えている。子どもの読書活動の推進とその 10 年後の姿を支援していきたい。

・　地域開放型学校図書館での学習支援については、地域の人が子どもたちの学習を支援する。区内のある中学校では、地域の人が土曜日教室をつくり勉強を教えている。塾利用の有無での教育格差などは、できるだけ地域で埋めていきたい。
　先日、保育士さんが子育てひろばに読み聞かせに来た際、大型の本を持ってきて読み聞かせをしてくれた。どのサイズを図書館に置くのかも大切だと感じた。読み聞かせの際に、1 歳が 5～6 名いたが誰も聞いていなかった。1 歳ではまだ早いが、2 歳では飛び回っていたりする。実際、スペースを作ってもどれだけの利用者がいるのか。また、事前に登録した人だけが入れる仕組みも必要だと思う。管理されることを嫌がる人もいるだろうが、管理は必要だと思う。それと、立ったまま読むわけにも行かないので、展示図書閲覧用の机・椅子の用意をお願いしたい。

・　通塾にはお金かかるという話があった。高齢者の中には、非常に能力があり、教えたい意欲のある人がいる。そういった人を活用してほしい。高齢者の生きがいにもつながる。

・　新図書館の 7 階の予約室は、運用が難しいと思う。児童コーナーと同じフロアということで、慎重な対応が必要だと感じる。図書館は昔と違い、利用者のニーズの細分化などを踏まえ、多様な対応が必要になってきている。また、居場所としての機能を図書館に求める人も多く、それぞれのニーズを成立させるためには、明確なゾーニングが必要となる。その意味で、地域開放型学校図書館は、子どもに特化できるのであれば、有効な運用が可能になるかもしれない。学校に行き始めると、一旦区立図書館から離れてしまう。同じ学校の施設を利用できれば、図書館の重要性、楽しさを教育機関を通じて伝えられ、大人になっても利用してもらえるのではないかと思う。

・　地域開放型学校図書館のメリット・デメリットや必要性、学校図書館に関わる人のことが議論されているが、この議論を踏まえてそれも中野区で何を導入できるか検討していってほしい。学校図書館の開放による、親子へのメリットなど強調していっていいのではないか。地域開放型学校図書館の実施を段階的なスケジュールで行うのであ

れば、児童や先生などにアンケートをして声を聞いてみるというのは有効ではないか。
地域開放型学校図書館の開設前にこれらの意見を取り入れるといいのではないか。